

東日本大震災に関する支援について（中間報告 1）

3月12日（土）から

会員、理事・監事などの安否、病院・検査室の被害状況の情報収集にあたった。

3月15日（火）

日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会から支援の申し入れがあり、応諾、支援をお願いした。また、各企業に対し支援を要請した。

3月20日（日）～26日（土）

理事および宮城県臨床検査薬卸協議会7社へ会員および臨床検査実施施設に対する臨床検査技師の安否および臨床検査室の状況に対する聞き取り調査の依頼を行った。

3月28日（月）

南三陸町ベイサイドアリーナおよび避難所（高校）へ、長沢会長、藤巻事務局長が赴き、今後の支援体制について、志津川病院の西澤医師、佐藤技師と話し合った。

翌29日（火）に西澤医師の要請により、レジオネラおよび肺炎球菌尿中抗原検出キットをそれぞれ120検体分を、仙台社会保険病院の派遣チームに届けてもらう。

3月31日（木）

気仙沼市立本吉病院からの要請により、長沢と各メーカー担当者が現地へ赴き、血液ガス装置一式（ラジオメーター）、尿定性装置一式（アークレイ）、生化学装置一式および遠心機等（富士フィルム）、血液検査装置（ベックマンコールター）を届け、設置した。各種抗原検出キットは、東京に手配し、取り急ぎインフルエンザ抗原キット40検体分を東北大学病院から持参した。

また、南三陸町からの要請で、PT-INR測定機器・試薬が無くなり、至急手配いただきたいとのことで、保持分の機器・試薬セット（ロシュ／三光純薬）2台を直接届け、残り5セットを東京へ依頼した。

4月1日（金）

宮城県医療整備課の要請により、宮城県震災医療対策会議へ長沢会長が出席し、検査室の支援状況について報告を行った。また、災害地支援への足の確保のため「医療救護班車両」の指定を受けた。

4月5日（火）

宮城県医師会長および仙台市医師会長に対し、宮城県臨床検査技師会の支援内容と協力要請の文書を、それぞれの事務局を訪れ、長沢会長から事務局長へ手渡した。なお、本件について宮城県医療整備課にも報告した。

4月6日（水）

石巻地区、気仙沼地区へ宮城県臨床検査技師会として現状把握、要望調査として、長沢会長、番場副会長、藤巻事務局長と訪問した。

・仙石病院：試薬の納入遅れや品不足であるとの電話を受け、出入りの問屋に確認したところ、特に問題となっていないとの回答があったが、念のために訪問することにした。震災時の津波が床まで上がってきたが、検査機器などに影響はなかった。試薬類もほぼ入ってきているとのことであったが、早急にRSV-アデノの抗原検出キットが欲しいとのことで、翌日に支援として届けることにした。

また、女川地区の病院について、偶然と仙石病院に来ていた放射線技師と話をすることが出来た。技師は全員無事で、震災前から決まっていた4月からの自治体病院への経営移管により、数名の臨床検査技師が赴任したとのことでした。

・石巻赤十字病院：病院自体の被害は全く無く、拠点病院として活躍しているが、検査に関する問題点は無いとのことでした。

・気仙沼病院：病院自体の被害は全く無く、拠点病院として活躍しているが、検査に関する問題点は無く、震災前とほぼ変わらないとのことでした。しかし、震災により家を流された職員がいるとのことであった。

4月11日（月）

三陸町（志津川病院）より電話があり、イスラエルの支援団が撤退したこと、仙台社会保険病院の支援および検診バスにある検査機器の対応などについての報告があった。同時に、検査システムの構築に力を貸してほしいとの要請があり来週打合せを行うことにした。また、各地区の避難所にある診療室から検体を運んでくる手段が無く、中古の軽自動車などないかとの相談を受けた。このことは、我々ではなく行政の管轄と考え、宮城県医療整備課へ事情を説明し、医療整備課が南三陸町と相談することになった。

4月13日（水）

仮診療所として再開した石巻市立病院に電話し、長原技師と話して支援等の要望をお聞きしたが、まだ始まったばかりで、何が不足しているのかわからない状態とのことであった。要望があったら、技師会に連絡をいただくことにして、来週訪問することにした。

平成23年4月14日
（社）宮城県臨床検査技師会会長